

水 泥 新 聞

第二八号
2017年(平成29年)4月5日

編集

フジクリーン工業株式会社

〒四六四・八六一三

愛知県名古屋市中千種区今池
四丁目1番4号

TEL

〇五二・七三三・〇三三五



熊本地震から約1年 仮設住宅で 活躍する浄化槽

2016年4月14日21時26分。熊本を最大震度7の地震が襲った。その28時間後の4月16日1時25分には、再び最大震度7の揺れに襲われる。未曾有の災害に見舞われた熊本で、仮設住宅の汚水処理事情を探った。



©2010 熊本県くまモン社 K25988



▲益城町のテクノ仮設団地に設置された浄化槽(CSL II-50型×20基、CSL II-45型×8基)

想定を 大幅に上回る 家屋の倒壊

熊本地震から約1年。震災の傷跡が残る県内で、人々の日常を支える重要な役割を果たしたのが仮設住宅だ。熊本県危機管理防災課の発表(※1)によると、熊本地震による住宅被害状況は、全壊が8、652棟、半壊が33、242棟、一部破損が143、612棟と甚大な被害をもたらした。



▲益城町のテクノ仮設団地

人々の日常を支える 仮設住宅の完成

仮設住宅の1棟目が完成したのは、地震発生から約1か月半が経過した頃。現在は、16市町村に110団地4、303戸(※2)の仮設住宅が完成している。

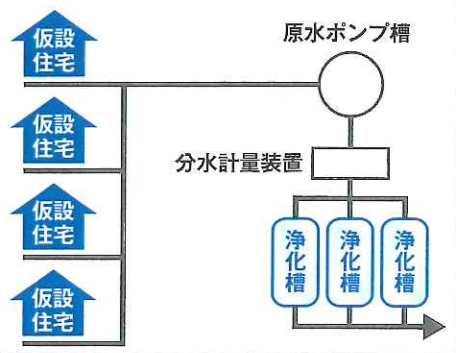
東日本大震災を踏まえ 中型浄化槽を導入

仮設住宅は原則2年で撤去されるため、汚水処理設備として欠かせないのが浄化槽だ。熊本では、環境省が東日本大震災の経験を踏まえ発表した指針(※3)により、大型浄化槽ではなく中型浄化槽を複数基設置することとなった。

コラム

浄化槽を複数基設置する理由

仮設住宅では、住民の転入や転出が頻繁にあるため、浄化槽に流入する汚水量が一定しないことが多々ある。浄化槽を効率的に運用するためには、流入汚水量を安定させることが重要。そのため、生産スピードが比較的早い中型浄化槽を複数基設置し、流入汚水量に応じて稼働基数を調整する分配方式が適している。



▲分水計量装置から分配される汚水量で、稼働基数を管理する。



▲仮設住宅の建設がスタートした頃の現場(城南地区)

た。これは、入居者の出入りに伴い増減する流入汚水量に対応するため。熊本市にある営業所も被害を受けたフジクリーンでは、全国のスタッフが一丸となり製造体制を整え、全体の5割近くにのぼる浄化槽を納入。被災した人々の生活に大きく貢献した。

※1/2017年3月7日発表
※2/2016年11月14日熊本県発表
※3/応急仮設住宅に設置される浄化槽の施工・維持管理・有効利用における留意点

